

最高の100周年を目指して

老舗電力用計器メーカーを率いる 若きリーダーの挑戦

1949年創業の東洋計器株式会社は、電流や電圧を測る電気・電子計測機器及び変換器の総合メーカー。そんな同社の3代目社長として2016年1月に就任したのが、山田倫久氏である。この新進気鋭の経営者の情熱をエンジンに、100年企業に向け加速する同社の取り組みを紹介する。

同社製品は配電盤、電気制御装置、研究・試験装置といった様々な用途で使用され、顧客にも、大手重電メーカーから船舶

関係、J・R・私鉄などの鉄道インフラ、水処理場プラントや原子力・火力発電所など大手企業がズラリと並ぶ。特に船舶関係

は約6割、水処理場関係は約5割の高い市場シェアを誇る。

なかなか人目につくものではないが、日々の暮らしに深く関わる分野であり、その社会的意義は非常に高い。

「半世紀にわたり積み上げてきた信頼と実績が何よりの強みです」と先達への感謝の言葉を紡ぐ山田社長。

このように電力用計器で業界を牽引してきた同社だが、次なる一手は太陽光パネルのメンテナンスに役立つストリング監視ユニット「ミ・ソ・ラ」。既設プラントにも後付設置が可能なこの製品は、国内一流企業との取引で鍛えられた技術と品質の高さによって、他社とは一線を画している。

さらに、鉄道車両用搭載機器を武器に、アジアをはじめとした海外への進出も睨む。「今後は現在の業界とは全く異なる

分野にも参入したい。農業や介護、医療なども視野に入れています」(山田社長)

**若手が活躍できる環境で
新たな33年を**

慶応義塾大学卒業後、野村證券に入社した山田社長。5年間営業の最前線で研鑽を積み、培った経験を経営にも生かす。

あえて社長室を使わず営業フロアに席をもち、垣根なく社員と会話をする。その理由を「経営者といえども現場感覚をなくしたくないからです。お客様が何を考え、何を感じているのかを知り、的確に伝えていくことが重要です」と語る。

また「従業員には元氣よく明るい顔で出社してほしい。厳しければ温かく、面倒見のいいウェットな会社になりたい」という山田社長は人材育成にも前向きで、将来性豊かな若手には



社内公募で名称を決定した「ミ・ソ・ラ」



本社社屋

ほとんど大きな仕事を任せていく方針だ。

「当社の最大手顧客を担当しているのは最も若い営業社員です。責任が大きい分、やりがいも十分。ですから営業部門はバイタリティに溢れ、諦めない心を持った人材。技術部門はこつこつ粘り強さを持った人材。どちらも『やってみたい』を発信できるチャレンジ精神旺盛な人材を求めています」

最後に「創業から今年で67年目。これは偶然ですが、創業者である祖父と現会長の父はともに33期ずつ代表を務めました。私も同じように33年務めなければちょうど100年企業になります。最高の100周年を迎え、次の世代に繋げていきたい」と熱い言葉で締めくくってくれた。



東洋計器(株)代表取締役社長

山田倫久